

～全社員の投入時間を企業価値に変える～

「PBR 改革に直結する人的資本マネジメントサービス」をリリース

2025 年 10 月 1 日

一般社団法人 iCD 協会

株式会社エイチ・ピー・ピー・ティ

株式会社 RIKKA

ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社

■ 「タスク × 人的資本 × 株主価値」統合サービスを共同リリース

一般社団法人 iCD 協会（iCDA）、株式会社エイチ・ピー・ピー・ティ（HPPT）、株式会社 RIKKA、ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社（JPR）の 4 法人は、企業の人的資本と株主価値を直結させる革新的な経営支援サービスを共同でリリースいたします。

1. 背景と課題

【背景】

東京証券取引所による「PBR^{※①} 1 倍割れ企業への改善要請」を背景に、多くの上場企業が企業価値向上の具体策を模索しています。2024 年時点で東証プライム市場における企業の約半数が PBR1 倍割れとされ、これは、同じことを繰り返すだけの業務が大半を占めていることと理論的に関連します。

社員一人一人による将来価値創造への取り組みが急務となっています。

【課題：経営者】

- I. PBR 向上に直結する打ち手が不明確
- II. ROIC^{※②}/WACC^{※③}改善と現場業務の関係が不透明
- III. 投資家に耐える説明可能な人的資本データが不足

【課題：現場（管理者・担当者）】

- I. 自身の業務が企業価値にどう貢献するか説明できない
- II. 生産性向上の努力が株価に反映されているか検証できない
- III. PBR1 倍割れに関する経営者と現場の緊張感も知識レベルも乖離している

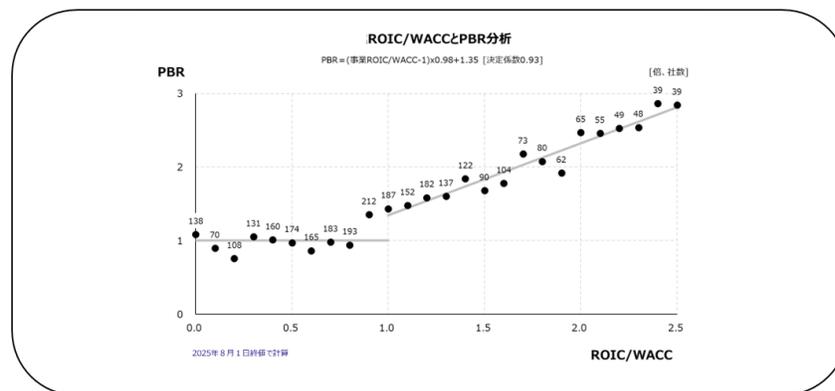
これらの課題が、企業価値向上の障壁となっています。

2. 本サービスの目指すもの

本サービスは、「どのタスクが PBR 向上につながるのか」を明確化し、人的資本経営を株主価値に直結させるタスクマネジメント体系を提供します。JPR の分析によれば、PBR と ROIC/WACC には強い相関（決定係数 0.93）があり、さらに「高付加価値タスクへの時間配分」がその因果を支えています。本サービスはその仕組みを実務レベルで可視化・実装します。経営者には「株主価値向上への明確なロードマップ」を、現場には「測定可能で納得感のある人的資本経営手法」を提供します。

あなたもPBR増加企業に仲間入りしませんか？

PBRの増加はROIC/WACCの比率の増加と連携



ROIC/WACCで企業価値分析20年の実績・毎週3000社分析のノウハウでサポートします

3. サービス概要（3ステップアプローチ）

ステップ1：タスクの体系化 — 全社業務を共通言語に

iCD^{※④}のタスクディクショナリを活用し、全社業務を標準化・体系化。経営者から現場（管理者・担当者）まで同じ物差しで業務を把握可能にします。

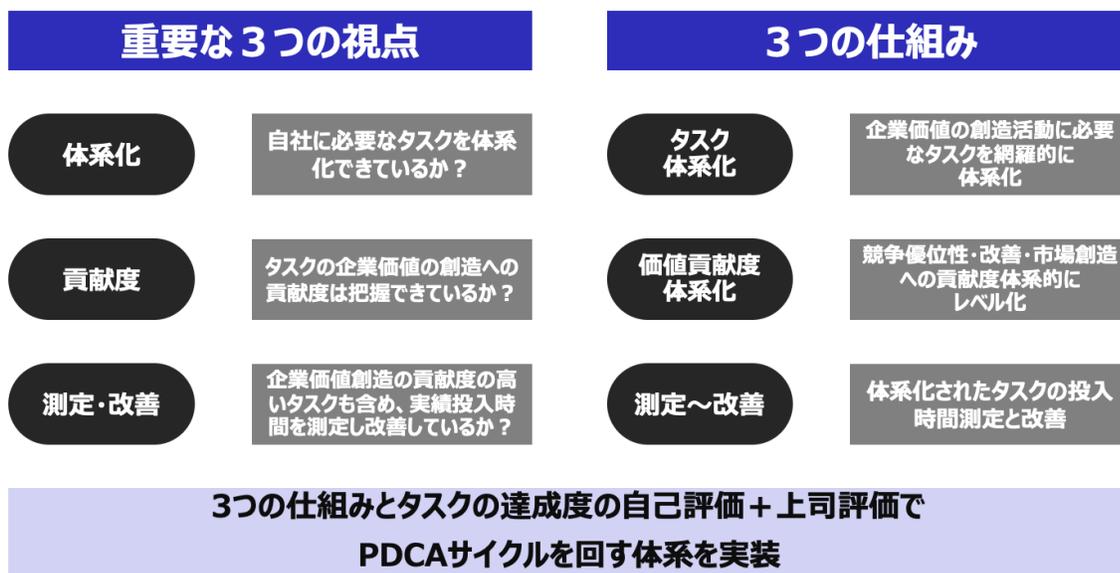
ステップ2：価値貢献度の紐づけ — タスクを企業価値に紐付け

各タスクの価値貢献度を8段階^{※⑤}評価し、更に、「基本機能業務^{※⑥}」「補助機能業務^{※⑦}」に分類。達成度を数値化し、価値貢献スコアを算出します。

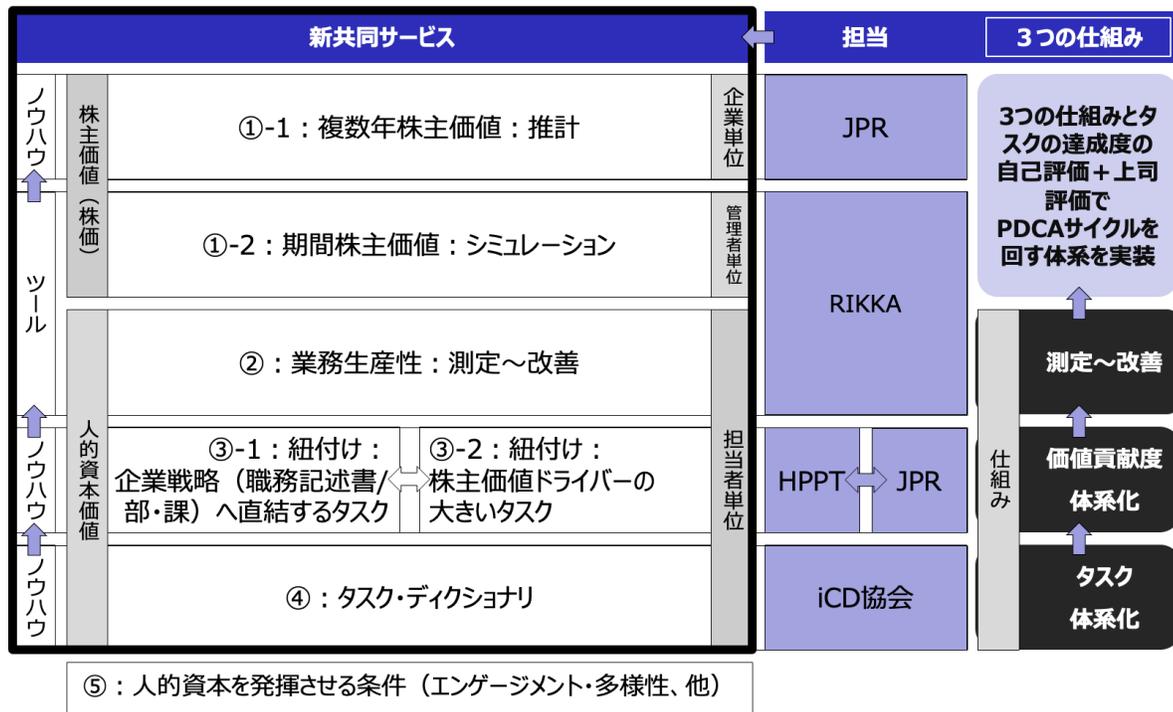
ステップ3：可視化とシミュレーション — 投資家に説明可能な人的資本経営

RYX^{※⑧}を導入し、タスク単位の投入実績時間を測定（回収：PCログ、他）。Power BIで閲覧・分析可。この人的資本データを基に、管理者単位で自社への貢献株主価値インパクトのシミュレーションを実施。結果、人的資本経営の成果がROIC/WACC^{※⑨}、ひいてはPBR改善へ直結します。

3つの視点に対応するタスクの3つの仕組み



この3つの仕組みを実現するのが以下の新共同サービスです。



3つの仕組みが段階的に積み上がり、4社のノウハウが結集されることで、人的資本価値から株主価値への変換を確実に実現します。「⑤：人的資本を発揮させる条件（エンゲージメント・多様性、他）」と「①-1：複数年株主価値」を直接連携させて人的資本「開示」を実施している状況を、より具体化させます。

これらを実際の企業に導入するための具体的な手順が、以下の導入プロセス9ステップです。

4. 導入プロセス 9 ステップ

導入プロセスは全 9 ステップで構成されます。全く初めての新規導入企業はタスクディクショナリ導入の現状分析・マッピング・体系完成の 3 つのステップから開始し、価値評価、測定導入、データ収集、改善計画、施策展開を経て PBR の向上の実現を目指します。タスクディクショナリ導入済企業はステップ 4 の価値評価から導入可能です。各ステップの想定期間は企業規模により変動し、小規模企業は 9 ヶ月、大規模企業は 16-20 ヶ月を要し、タスクディクショナリ導入済企業は S1-S3 のプロセスの多くが不要になり 3 か月から 6 か月ほどプロジェクトが短縮します。

Step	テーマ	実施事項	4 社の役割	想定期間 (ヶ月)	タスクディクショナリ 導入 企業	対応	主担当	3 つの 仕組み
S1	現状分析	・既存業務の棚卸し ・業務リスト作成 ・経営課題明確化	iCDA：導入説明と事前分析 JPR：現状 PBR 測定	3	--	④	iCD 協会	タスク 体系化
S2	マッピング	・全部門 WS 参加 ・159 分類への振分け ・週 40 時間投入	iCDA：専門家による分類支援 HPPT：並行して価値評価準備		--	④	iCD 協会	タスク 体系化
S3	体系確認	・最終調整実施 ・部門間整合 ・承認プロセス	iCDA：体系認定と品質保証 RIKKA：システム登録準備		--	④	iCD 協会	タスク 体系化
S4	評価管理	・レベル 3-10 評価 ・基本／補助分類 ・管理者全員参加	HPPT：評価基準策定と研修 JPR：ROIC 関連性説明	3	○	③-1	HPPT	価値貢献度 体系化
S5	システム構築	・RYX 導入承認 ・Teams 環境整備 ・ID 発行手続き	RIKKA：RYX ツール設定 HPPT：評価ロジック実装		○	②	RIKKA	測定～改善
S6	データ収集 状態	・被測定者実績入力 ・日次記録開始 ・精度チェック	RIKKA：入力支援と分析 JPR：KPI 設定（例：基本 機能業務比率 23%）		○	②	RIKKA	測定～改善
S7	分析・計 画状態	・改善領域特定 ・目標値値段 ・施策立案	4 社合同：改善計画策定 JPR：ROIC/WACC 影響 度分析		○	③-2	JPR	価値貢献度 体系化
S8	推進展開 状態	・高価値シフト ・業務改善実施 ・週次 PDCA	HPPT：改善支援 RIKKA：進捗モニタリング	6	○	①-2 ②	RIKKA	3 つの 仕組み 統合活用
S9	価値管理 状態	・統合報告書アウトライン ・投資者説明方針作成 ・継続性体制構築	JPR：PBR 改善測定 全社：自走化支援		○	①-1	JPR	3 つの 仕組み 成果統合

注：一部変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

■ 本件に関するお問い合わせ先

一般社団法人 iCD 協会 (iCDA)

Email: icda-info@icda.or.jp (担当 : 遠藤)

■ 紹介 : 4 法人

- I. 一般社団法人 iCD 協会 (iCDA / 所在地 : 〒101-0046 東京都千代田区神田多町 2-2-22 千代田ビル 5F、代表者 : 理事長 金 修 : <https://www.icda.or.jp>)
 - II. 株式会社エイチ・ピー・ピー・ティ (HPPT / Human Performance & Productivity Technology, Inc.、所在地 : 〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-8-9 フォーチュンスクエア 2F、代表者 : 代表取締役 坂本 裕司 : <https://www.hppt.jp>)
 - III. 株式会社 RIKKA (RIKKA Inc. /所在地 : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-23-4 桑野ビル 2F、代表者 : 代表取締役 CEO 坂本 裕司 : <https://www.rikka.management>)
 - IV. ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社 (JPR / J-Phoenix Research Inc.、所在地 : 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-2-9 日比谷セントラルビル 14 階、代表者 : 代表取締役 宮下 修 : <https://www.j-phoenix.com>)
-

■ 解説：用語

- I. ※①：PBR：Price Book-value Ratio：株価純資産倍率
 - II. ※②：ROIC：Return On Invested Capital：投下資本利益率
 - III. ※③：WACC：Weighted Average Cost of Capital：加重平均資本コスト
 - IV. ※④：iCD（iコンピテンシディクショナリ）：IPA（情報処理推進機構）が開発した、企業で必要とされるタスク（業務）とスキルを網羅的に定義した標準辞書。
 - V. ※⑤：8段階評価：レベル3-4「価値キープ（差別化なし）」、レベル5-7「競争優位維持・改善」、レベル8-10「価値創造・市場創造」として、各タスクの企業価値貢献度を評価。
 - VI. ※⑥：基本機能業務：企業戦略の実現（＝「Job Description：職務記述書」の遂行）に直結する業務。
 - VII. ※⑦：補助機能業務：基本機能業務を補助する業務（無駄ではない）。
 - VIII. ※⑧：RYX（RIKKA Yarigai Transformation）：業務時間測定・分析（担当者単位）、及び、株主価値インパクトシミュレーション（管理者単位）ツール。Microsoft Teamsで運用。
 - IX. ※⑨：ROIC/WACC：ROIC（投下資本利益率）をWACC（加重平均資本コスト）で割った指標。1.0を超えると価値創造、1.0未満だと価値破壊を意味。
-